

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100249		
法人名	医療法人社団藤花会		
事業所名	花平の郷		
所在地	浜松市北区引佐町半平725-1		
自己評価作成日	令和 元 年 11月 11日	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2278100249-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 元年12月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれている自然を利用し、四季の移り変わりが直接感じられるように、日々の散歩はもちろん、ドライブなどの外出を毎月企画している。月によっては、担当職員と入居者様との二人で喫茶店等に出掛け、おやつを食べてくるという内容の企画も行っている。ゆったりと自然を感じながら、グループ単位での外出だけでなく、最少人数での気軽な外出も取り入れている。
畑での野菜作りにも力を入れている。現在、隣接している老健やショートステイ施設と、それぞれで同じ野菜を作っている為、お互いの施設利用者間で張り合いながら野菜作りを楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あなたはこの施設に入居したいと思いますか」と常に問いながら、施設長と管理者が職員とともに利用者の支援にあたっている。事業所の理念や虐待防止などは、朝ミーティングで確認するとともに、玄関・職員トイレ内・職員休憩室など事業所のあちこちに掲示して、常に意識づけている。恵まれた自然を利用した広い敷地内には法人の複数の事業所があり、事業所のまわりを自由に散歩できる環境が整備されている。車いす対応の専用車両があり、季節ごとに外出を楽しむことができる。玄関の事務所受付には、デジタルフォトが設置され、利用者や来所した家族が日常生活や行事の写真を見ることができる。食事は、併設する法人他事業所と統一の献立だが、ご飯とおみそ汁は手作りで、利用者にメニューを相談したり、畑で採れた野菜を使ったり、食事を楽しむ工夫をしている。入浴は、出来る限り入居前と同様の時間になるよう、午後15時半から夕食前に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の皆様から愛される施設』を理念に掲げ、新規職員へのオリエンテーション時に説明している。全職員へも資料を配布し、目立つところに掲示もしている。理念をもとに毎月の目標も立て、各フロアに掲示するとともに、毎朝申し送り時に確認している。	事業所の理念は、ミーティングで毎朝確認するとともに、玄関・職員トイレ内・職員休憩室など、事業所のあちこちに掲示し、常に意識づけをしている。「あなたはこの施設に入居したいと思いますか」と常に考えながら、利用者を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の運動会やお祭りなどにも参加させて頂き、交流を図っている。シニアクラブの方々に門松作りをお願いしたり、年1回は地域の方々の施設周辺の草取りも開催している。	地域主催の行事に参加したり、シニアクラブの方々に門松作りを依頼したり、地域とのつながりが保たれている。事業所周辺を散歩の際には、畑作業の人と挨拶したり、敷地内の自動販売機を利用してもらうなど、地域の方が出入りしやすい環境である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会などを通じて、認知症に関する講演など協力できることがないか、と相談している。過去には、介護相談員の研修やロータリークラブへの勉強会にて、説明させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催を続けている。年間計画を立て、会議室内での話し合いだけでなく、施設内にて食事会の様子やおやつ作り、レクの様子など、体験して頂きながら説明する内容も取り入れている。家族にも参加されやすい内容を提供している。	地域代表(自治会長・シニアクラブ代表・民生委員)が参加して、2か月に一度、開催している。関係者へは年間計画を年度当初に配布し、会議への参加を促している。会議開催時に、施設内見学・食事会やレクリエーションを同時に実施して、家族が参加しやすい工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は、介護保険課からの実地指導を受けたが、事前に連絡を取り、取り組みに対する確認も行っていった。実地指導当日は、職員の欠勤時の対応などについても確認させていただいた。	運営推進会議に欠席の場合は、議事録を持参して、実情や取組みを直接説明するなど、市担当者とは、常に連絡を取るようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会に参加し、全職員に対し、身体拘束への意識を高めている。各所にセンサーを設置し、外に行かれようとする人に対し、無理に止めるのではなく、安全にかけられるよう見守り、または一緒に散歩などをしている。	毎月、法人内で「高齢者の尊厳を守る委員会」を開き、事業所担当者が参加して情報交換をしている。外部研修にも参加し、社内全体研修会で情報の共有をしている。「適正化の指針」「ゼロ宣言マニュアル」を整備して掲示し、職員は常に意識してケアに取り組んでいる。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会に参加し、虐待について全職員に指導している。スピーチロックについても職員同士注意し、意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当職員を決め、研修への参加をしている。家族の会において、家族への説明も行って		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階で契約の説明を行い、不安や疑問の解消に努めている。改定等があれば、その都度書面においてお知らせし、面会時に詳しく説明したうえで同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	声を掛けてもらい易い雰囲気作りに努めている。入居者や家族の意見を取り入れての誕生日会など、要望を反映させた内容にしている。	利用者それぞれに担当者を決め、常に家族と連絡を取っている。家族会が年1回アンケートを実施して、家族の要望を聞いている。利用者の希望に合わせた「オリジナル誕生会」を実施するなど、利用者や家族の意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議以外でも気になっていることや提案などは出来る限り耳を傾けている。事業所だけでは解決しない案件に関しても、法人の運営会議において意見を出している。毎月の行事や企画においては、基本的に担当者のアイデアにて実施されている。	ユニット会議やミーティングだけでなく、日頃から職員の意見を聞く環境作りを心がけている。毎月企画する行事は、流しそうめんや敬老会・運動会など、職員のアイデアを反映して全員参加で実施している。法人全体の運営会議においても、意見交換ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員満足度が高まるように、職員意見箱を設置し、思いを確認されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に『研修教育委員会』を設置し、毎月行う全体研修会や資格取得に向けての勉強会を企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加盟し情報を得ている。また、北区での情報交換会に参加し、他施設での取り組みなどを確認している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の悩みや苦しみなどが、理解できるよう傾聴に努めている。家族からも意見を確認したうえで、本人の不安の軽減に努め、信頼される関係を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩み、相談事などは、しっかりと耳を傾け、不安が軽減されるように声かけを行っている。信頼して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、その方にとって『もっとも適切なサービスが提供できる場所はどこか』を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いはいはしないが、洗濯物や食器の片づけ準備など、お願いできることは単独あるいは複数の方をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の会にて、要望があれば介助方法や移乗方法などの勉強会を家族対象に行っている。外出などの企画に対し、家族にも毎回お知らせし、一緒に参加できるように促しをいっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	明るい笑顔と言葉がけを心掛け、面会に連れられやすい雰囲気作りに努めている。馴染みある場所へのドライブや年賀状などを通じ、外部とのつながりが途切れないように支援している。	年賀状を送る手伝いをしたり、かつての職場の友人の来訪を受けたり、馴染みの方との関係が途切れないように支援している。季節に合わせて馴染みの場所へドライブするなど、車いす利用の人でも外出できる機会を設けて、外部とのつながりを大切にしている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが関わりを持てるよう、気が合う同志を基本に食事の席など配慮している。作業やレクを通じ、関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は随時面会に伺い、状態の把握とともに「力になれることはないか」を考え、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報より、その方の思いや要望を把握している。また、普段の生活の中において食べたいものや、見たいテレビなどの思いを拾い、意向に沿うように努めている。	「バックグラウンドアセスメント」「相談記録」を利用して聞き取りを行い、ケアプラン・週間サービス計画に反映している。過去1年分を常に確認できるように備え、日常会話には専門用語を使わないなど、要望や意向を聞き出しやすいケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前可能であれば、自宅での実際の生活の様子を確認させていただいている。また、バックグラウンドアセスメントにより、これまでの経過などについて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間で毎日申し送りを行い、記録に残すことで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りにおいて、その時の課題についての対応を確認している。また、ユニット会議にて経過や問題点を職員間で共有している。ケアプランは3~6か月で計画を見直し、カンファレンスにて課題に対する経過・結果を話し合っている。医師の意見も踏まえ、家族から計画に対する同意を得ている。	「サービス担当者会議の要点」として、各担当者から日頃のケアの様子・評価を細かく吸い上げ、ユニット会議やカンファレンス等で話し合い、サービス計画作成に反映している。協力医の意見や家族の要望も取り入れ、常に家族に説明しながら、支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、毎日経過記録へ記載している。その他、介護日誌や連絡ノートを用い、情報の共有を図りながらケアに当たっている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会には家族と一緒に過ごされる時間や環境を支援している。かかりつけ医以外での受診も家族が都合付かなければ、施設にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアによる唄・踊りなど随時受け付けている。地元消防署から水消火器をお借りし、防災訓練時に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三つの医院にてかかりつけ医をお願いしている。入居時、かかりつけ医を選択して頂くが、どの医院においても月1回の訪問診療、または毎月の定期受診とともに、適時診療・24時間対応での相談をお願いしている。	複数の協力医院があり、入居時に利用者や家族にかかりつけ医として選んでもらっている。毎月1回の訪問診療を受けているほか、歯科診療などは適時、診療を受けられるよう、常に協力医との連絡を取って、適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職でもあり、日々の様子と違うことがあれば、すぐに連絡相談している。毎週2回の契約看護師の訪問があり、また隣接されている老健の看護師にも随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	頻回に面会に伺い、状態の把握に努めるとともに、退院後も安心して戻っていただけるようコミュニケーションを図っている。また入院先のスタッフとも情報交換や相談をしながら、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応について説明を行い、食が細くなったり、一般状態が低下されてきた時点で改めて説明し、家族の意向を最終確認する。看取りを希望された場合、ケアプランを新たに作成し、対応について説明、同意を得ている。24時間体制での医療との連携にも努めている。	「看取りに関する指針」やマニュアルを整備し、入居時に利用者や家族に説明している。状態が低下した場合には、再度家族に説明し、家族の意向を確認しながら対応できるように、終末期に向けた仕組みを整えている。職員研修も毎年実施して、医療との連携もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って全職員に対し、勉強会を実施している。法人全体としても毎年、勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・消防署への通報訓練を実施している。今年度は隣接する老健が火災と想定した訓練を行い、ユニット間の避難とともに、他施設との合同訓練も実施した。災害による停電も想定し、自家発電機の取り扱いについても毎年行っている。	隣接する法人他事業所と合同で、年2回避難訓練を行っている。火災想定訓練や災害時の停電対応など、テーマを決めて訓練を実施し、職員の体制を確認している。備蓄品を整備し、台帳により管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職歴や生活歴を考慮し、名前でお呼びするだけでなく、「先生」「おとうさん」などその方にとって馴染みある声かけになるように工夫している。	プライバシー保護や個人情報保護方針などを、玄関・職員トイレ・職員休憩室などに掲示し、職員が常に考えながらケアすることを心がけている。委員会で研修も行うが、普段の声掛けなど、職員同士がお互いに注意できる環境作りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物やドライブなど、希望を確認したうえで一緒に出掛けている。その日に着る衣類も自分で選んでもらえるよう声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や本人の要望・体調を考慮し毎朝の申し送りの際に、その日の予定を組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物ができる方は衣類や食器など自分で選んでもらっている。意思表示されない方には、家族から好みを伺ったり、自宅にある、好みの服などを持ってきてもらうよう、お願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際に、味噌汁の具材などの相談をし、買い物にも参加を呼び掛けている。食材の運搬や、盛り付け・片付け、食器拭きなど一緒に行って頂けるよう、お願いしている。畑で取れた野菜も料理に加えることにより、食事がより楽しい物になるよう支援している。	日々の食事は、併設する老健施設の献立を利用しているが、ごはん・味噌汁は、独自で作っている。味噌汁の具材を利用者と一緒を考えたり、畑で採れた野菜を加えたり、利用者家族との食事会など、食事を楽しんでもらうことを考えながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックしている。嗜好も事前に確認し、苦手なものを避けたり、咀嚼や嚥下の状態に合わせ、食形態や水分へのとろみをつけている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨きを行っている。困難な方に対しては歯科医や歯科衛生士から助言をもらいながら、口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、24時間での排泄パターンやリズムを把握している。昼間はさりげない声掛けをしながら、出来る限りトイレでの排泄を促すが、夜間はセンサー反応により、トイレ誘導を行ったり、睡眠の確保のため、あえてパット交換だけを行うなど、習慣や状態に応じた対応を心掛けている。	「排泄チェック個人表」に記載し、利用者個別の排泄パターンを把握して、声掛けなどを工夫しながら自立を支援している。夜間はセンサーを利用してトイレ誘導を行うが、利用者の状態に応じて対応するよう、職員で情報を共有しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと飲んでいただけるよう、お茶だけでなく、ジュースや紅茶などお好きなものを提供している。随時便秘体操を行い、かかりつけ医と相談しながら下剤の量を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は15:30から開始し、夕食までの時間、ゆったり入っていただけるよう支援している。当日、入浴されない方へは足浴を行っている。一般浴への入浴が困難な方でも出来る限り入って頂くよう、介助者二人対応で行っている。ミスト浴も用意している。	入居前の生活に合わせるため、入浴は午後、夕食までの時間に行っている。2~3日に1回のペースで入浴してもらおうが、毎日足浴をしたり、体調により午前入浴やミスト浴にするなど、入浴を楽しんでもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマや寝具など、それまでの習慣や好みに合わせ、安心してゆっくり眠れるように支援している。昼間でも休みたい方がいれば、自由に休んでもらえる環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースにそれぞれの容量を記載し、配薬の都度、職員同士で確認し合い、与薬している。カルテに作用・副作用の記載された表を挟み、薬の変更があった場合は、連絡ノートに記入、全職員へ申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事等今まで自宅にて頑張ってきた方や、興味を持って下さる方へは積極的に声掛けを行い、生きがいを持って生活して頂けるよう支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭のベンチでおしゃべりしたり、野菜を見に行ったりと自由に屋外に出れるようになっていいる。毎月、外出の企画も立て、普段と違う雰囲気も味わって頂いている。外出の際は事前に家族へお伝えし、一緒に来て下さるよう呼びかけはしている。	車いす利用者のための専用車両があり、毎月外出計画をたて、車での外出を行っている。紅葉の時期は、天候を見ながら紅葉ツアーを行っている。日当たりのよい庭にはベンチが置かれ、自由に事業所のまわりの散歩ができる環境が整っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かり、買い物での支払いは、可能な限り職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方がいれば、家族へ電話をつないでいる。年賀状は毎年送るようにし、書くことが困難な方へは代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井と広いフロア、窓も大きく使われており、開放感を演出している。季節に沿った作品などを展示し、季節感も意識している。毎日業者さんによるフロア・トイレの清掃がなされ、職員も居室掃除・バケツ洗浄など毎日行い、快適で清潔な環境を提供している。	高い天井とフローリングの広いフロアは、大きな窓で明るく開放的である。利用者が作った作品が季節ごとに飾られていて、季節を感じながらゆったりと過ごすことができる。フロアの床・トイレは専門業者による清掃がなされ、快適で清潔な環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには畳の間があったり、ソファが置いてあり、ゆったり過ごしてもらえるようになっている。居室はフロアに面しており、一人になりたい時は気楽に居室で過ごせることが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への備品は、基本持ち込みとなっており、出来る限り馴染みのある家具などを入居時にお願している。居室内には家族の写真や、レクの作品などが飾られ、その人らしさも大切にしている。季節ごとの衣替えも家族にお願いし、本人のお好きなものを用意して頂いている。	居室は、クローゼット・洗面台・エアコンが設置されており、和室(たたみ)仕様と洋室仕様の2種類がある。仏壇や筆筒など馴染みのある家具を持ち込んで、家族写真などを飾り、利用者の暮らしやすい部屋となっている。衣替えなどは、担当者が家族と相談し、四季に合わせて入れ替えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを用意し、バリアフリーに徹している。トイレは車いすの幅でも入れるように広さを確保している。全室、フロアなどヘナースコールを用意し、急な対応にも応じられるよう、安全面においても配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100249		
法人名	医療法人社団藤花会		
事業所名	花平の郷		
所在地	浜松市北区引佐町半平725-1		
自己評価作成日	令和 元 年 11月 11日	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2278100249-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 元年12月 5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれている自然を利用し、四季の移り変わりが直接感じられるように、日々の散歩はもちろん、ドライブなどの外出を毎月企画している。月によっては、担当職員と入居者様との二人で喫茶店等に出掛け、おやつを食べてくるという内容の企画も行っている。ゆったりと自然を感じながら、グループ単位での外出だけでなく、最少人数での気軽な外出も取り入れている。
畑での野菜作りにも力を入れている。現在、隣接している老健やショートステイ施設と、それぞれで同じ野菜を作っている為、お互いの施設利用者間で張り合いながら野菜作りを楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の皆様から愛される施設』を理念に掲げ、新規職員へのオリエンテーション時に説明している。全職員へも資料を配布し、目立つところに掲示もしている。理念をもとに毎月の目標も立て、各フロアに掲示するとともに、毎朝申し送り時に確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の運動会やお祭りなどにも参加させて頂き、交流を図っている。シニアクラブの方々に門松作りをお願いしたり、年1回は地域の方々と施設周辺の草取りも開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会などを通じて、認知症に関する講演など協力できることがないか、と相談している。過去には、介護相談員の研修やロータリークラブへの勉強会にて、説明させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催を続けている。年間計画を立て、会議室内での話し合いだけでなく、施設内にて食事会の様子やおやつ作り、レクの様子など、体験して頂きながら説明する内容も取り入れている。家族にも参加されやすい内容を提供している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は、介護保険課からの実地指導を受けたが、事前に連絡を取り、取り組みに対する確認も行っていった。実地指導当日は、職員の欠勤時の対応などについても確認させていただいた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の委員会に参加し、全職員に対し、身体拘束への意識を高めている。各所にセンサーを設置し、外に行かれようとする人に対し、無理に止めるのではなく、安全に出かけられるよう見守り、または一緒に散歩などをしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会に参加し、虐待について全職員に指導している。スピーチロックについても職員同士注意し、意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当職員を決め、研修への参加をしている。家族の会において、家族への説明も行って		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の段階で契約の説明を行い、不安や疑問の解消に努めている。改定等があれば、その都度書面においてお知らせし、面会時に詳しく説明したうえで同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	声を掛けてもらい易い雰囲気作りに努めている。入居者や家族の意見を取り入れての誕生日会など、要望を反映させた内容にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議以外でも気になっていることや提案などは出来る限り耳を傾けている。事業所だけでは解決しない案件に関しても、法人の運営会議において意見を出している。毎月の行事や企画においては、基本的に担当者のアイデアにて実施されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員満足度が高まるように、職員意見箱を設置し、思いを確認されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて『研修教育委員会』を設置し、毎月行う全体研修会や資格取得に向けての勉強会を企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加盟し情報を得ている。また、北区での情報交換会に参加し、他施設での取り組みなどを確認している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の悩みや苦しみなどが、理解できるよう傾聴に努めている。家族からも意見を確認したうえで、本人の不安の軽減に努め、信頼される関係を目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩み、相談事などは、しっかりと耳を傾け、不安が軽減されるように声かけを行っている。信頼して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、その方にとって『もっとも適切なサービスが提供できる場所はどこか』を考えながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いはいはしないが、洗濯物や食器の片づけ準備など、お願いできることは単独あるいは複数の方をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の会にて、要望があれば介助方法や移乗方法などの勉強会を家族対象に行っている。外出などの企画に対し、家族にも毎回お知らせし、一緒に参加できるように促しをいっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	明るい笑顔と言葉がけを心掛け、面会に来られやすい雰囲気作りに努めている。馴染みある場所へのドライブや年賀状などを通じ、外部とのつながりが途切れないように支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが関わりを持てるよう、気が合う同志を基本に食事の席など配慮している。作業やレクを通じ、関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は随時面会に伺い、状態の把握とともに「力になれることはないか」を考え、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報より、その方の思いや要望を把握している。また、普段の生活の中において食べたいものや、見たいテレビなどの思いを拾い、意向に沿うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前可能であれば、自宅での実際の生活の様子を確認させていただいている。また、バックグラウンドアセスメントにより、これまでの経過などについて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間で毎日申し送りを行い、記録に残すことで状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りにおいて、その時の課題についての対応を確認している。また、ユニット会議にて経過や問題点を職員間で共有している。ケアプランは3~6か月で計画を見直し、カンファレンスにて課題に対する経過・結果を話し合っている。医師の意見も踏まえ、家族から計画に対する同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、毎日経過記録へ記載している。その他、介護日誌や連絡ノートを用い、情報の共有を図りながらケアに当たっている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会には家族と一緒に過ごされる時間や環境を支援している。かかりつけ医以外での受診も家族が都合付かなければ、施設にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアによる唄・踊りなど随時受け付けている。地元消防署から水消火器をお借りし、防災訓練時に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三つの医院にてかかりつけ医をお願いしている。入居時、かかりつけ医を選択して頂くが、どの医院においても月1回の訪問診療、または毎月の定期受診とともに、適時診療・24時間対応での相談をお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職でもあり、日々の様子と違うことがあれば、すぐに連絡相談している。毎週2回の契約看護師の訪問があり、また隣接されている老健の看護師にも随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	頻回に面会に伺い、状態の把握に努めるとともに、退院後も安心して戻っていただけるようコミュニケーションを図っている。また入院先のスタッフとも情報交換や相談をしながら、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応について説明を行い、食が細くなったり、一般状態が低下されてきた時点で改めて説明し、家族の意向を最終確認する。看取りを希望された場合、ケアプランを新たに作成し、対応について説明、同意を得ている。24時間体制での医療との連携にも努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って全職員に対し、勉強会を実施している。法人全体としても毎年、勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・消防署への通報訓練を実施している。今年度は隣接する老健が火災と想定した訓練を行い、ユニット間の避難とともに、他施設との合同訓練も実施した。災害による停電も想定し、自家発電機の取り扱いについても毎年行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職歴や生活歴を考慮し、名前でお呼びするだけでなく、「先生」「おとうさん」などその方にとって馴染みある声かけになるように工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物やドライブなど、希望を確認したうえで一緒に出掛けている。その日に着る衣類も自分で選んでもらえるよう声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や本人の要望・体調を考慮し毎朝の申し送りの際に、その日の予定を組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物ができる方は衣類や食器など自分で選んでもらっている。意思表示されない方には、家族から好みを伺ったり、自宅にある、好みの服などを持ってきてもらうよう、お願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際に、味噌汁の具材などの相談をし、買い物にも参加を呼び掛けている。食材の運搬や、盛り付け・片付け、食器拭きなど一緒に行って頂けるよう、お願いしている。焔で取れた野菜も料理に加えることにより、食事がより楽しい物になるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックしている。嗜好も事前に確認し、苦手なものを避けたり、咀嚼や嚥下の状態に合わせ、食形態や水分へのとろみをつけている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨きを行っている。困難な方に対しては歯科医や歯科衛生士から助言をもらいながら、口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、24時間での排泄パターンやリズムを把握している。昼間はさりげない声掛けをしながら、出来る限りトイレでの排泄を促すが、夜間はセンサー反応により、トイレ誘導を行ったり、睡眠の確保のため、あえてパット交換だけを行うなど、習慣や状態に応じた対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと飲んでいただけるよう、お茶だけでなく、ジュースや紅茶などお好きなものを提供している。随時便秘体操を行い、かかりつけ医と相談しながら下剤の量を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は15:30から開始し、夕食までの時間、ゆったり入っていただけるよう支援している。当日、入浴されない方へは足浴を行っている。一般浴への入浴が困難な方でも出来る限り入って頂くよう、介助者二人対応で行っている。ミスト浴も用意している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマや寝具など、それまでの習慣や好みに合わせ、安心してゆっくり眠れるように支援している。昼間でも休みたい方がいれば、自由に休んでもらえる環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースにそれぞれの容量を記載し、配薬の都度、職員同士で確認し合い、与薬している。カルテに作用・副作用の記載された表を挟み、薬の変更があった場合は、連絡ノートに記入、全職員へ申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事等今まで自宅にて頑張ってきた方や、興味を持って下さる方へは積極的に声掛けを行い、生きがいをもち生活して頂けるよう支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭のベンチでおしゃべりしたり、野菜を見に行ったりと自由に屋外に出れるようになっていいる。毎月、外出の企画も立て、普段と違う雰囲気も味わって頂いている。外出の際は事前に家族へお伝えし、一緒に来て下さるよう呼びかけはしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かり、買い物での支払いは、可能な限り職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方がいれば、家族へ電話をつないでいる。年賀状は毎年送るようにし、書くことが困難な方へは代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井と広いフロア、窓も大きく使われており、開放感を演出している。季節に沿った作品などを展示し、季節感も意識している。毎日業者さんによるフロア・トイレの清掃がなされ、職員も居室掃除・バケツ洗浄など毎日行い、快適で清潔な環境を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには畳の間があったり、ソファが置いてあり、ゆったり過ごしてもらえるようになっている。居室はフロアに面しており、一人になりたい時は気楽に居室で過ごせることが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への備品は、基本持ち込みとなっており、出来る限り馴染みのある家具などを入居時においている。居室内には家族の写真や、レクの作品などが飾られ、その人らしさも大切にしている。季節ごとの衣替えも家族にお願いし、本人のお好きなものを用意して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを用意し、バリアフリーに徹している。トイレは車いすの幅でも入れるように広さを確保している。全室、フロアなどヘナースコールを用意し、急な対応にも応じられるよう、安全面においても配慮している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		近隣の方々との関りが、作業的なもの(草刈りや防災訓練等)が多く、定期的にグループ内で企画しているイベントは年1回の夏祭りだけである。	花平の郷での企画やイベントに、近隣の方も楽しんで参加してもらえる内容を増やし、交流を深める。	運営推進会議を利用し、花平の郷でのイベント情報を提供するとともに、参加を呼び掛けていく。年末恒例のお餅つきなど、子供たちも喜んで参加してくれそうなイベントなどは、直接近隣の方へ声をかけていく。	10ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。